



日本歯科大学（新潟病院
医科病院）

Vol. 9
2010.10.1

アイヴィ通信

～皆様の口腔と全身の健康を目指して～

「暮らしの中にある学び～ 新しい自分を見つけよう」に参加して

日本歯科大学新潟病院総合診療科 スポーツ歯科外来医長
渥美陽二郎



本大学、短期大学は8月5日に朱鷺メッセにて開催された「暮らしの中にある学び～新しい自分を見つけよう」に参加しました。このイベントは中高生の皆さんに新潟県内の大学・短期大学や専門学校をより身近なものとして感じてもらい、専門分野を学ぶことへの理解を深め、さらには自分の進路を考えてもらう機会となるよう、新潟県の専門学校と大学・短期大学が協力して実施するものです。本大学からはスポーツ歯科外来、歯周病学講座、解剖学第1講座の医員、大学院生が、短大からは歯科衛生士、短大生が参加しました。



スポーツ歯科外来はスポーツ時に用いるマウスガードの作製体験、歯周病学講座は口臭測定、位相差顕微鏡による歯垢の観察を、解剖学第一講座は脳の容積測定、短大は超音波スケーラーの体験実習などを行いました。イベントには中高生のみならず親子連れも沢山見受けられました。どのブースも色々な質問が寄せられ、大変興味深く盛況でした。

このイベントで、中高生が歯科医療に興味を持ち、将来歯科医療の道へ進んでももらえたらと期待しております。



麦っ子ワークス無料歯科検診



本学では、平成7年以来16年間にわたって、新潟県内の障害者福祉施設への無料歯科検診を行っています。本年度も27箇所の施設に無料歯科検診を予定しております。

そんな中、7月14日の午後、新潟市西蒲区にあります知的障害者授産施設(通所)麦っ子ワークス(社会福祉法人 更正慈仁会)さん

に歯科検診に伺いました。当日は、歯科医師4名、歯科衛生士2名、本学の学生(臨床実習生)2名の計8名で訪問しました。通所しておられる43名の利用者の方に歯科検診を行い、その後、歯科衛生士を中心に個別に歯ブラシ指導を行いました。麦っ子ワークスの職員さんにも、ご協力いただき、約1時間半の検診でしたがスムーズに終了することができました。麦っ子ワークスさんには、平成19年以来、4年目の検診になります。検診結果に基づいて、かかりつけ医に早期に受診をされることが増え、利用者みなさんのお口の健康状態は、年々向上しています。歯科衛生士による歯ブラシ指導では、利用者の方から歯ブラシの交換時期や歯の磨き方などについて、熱心に質問がなされ、関心の高さが伺われました。





医の博物館へ ようこそ!



日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館

開館日時：平日(月曜～金曜日)
10:00～16:00
入館料：無 料

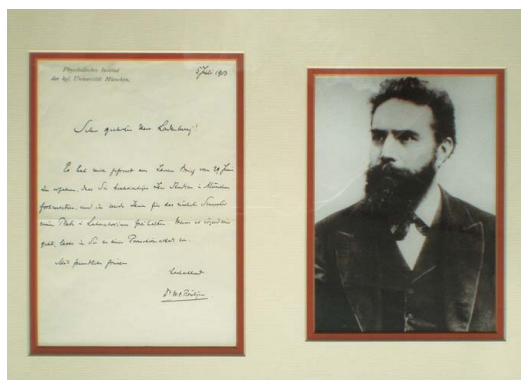


●W.レントゲン自筆の手紙と肖像写真

中国の伝説上の医師、扁鵲(へんじゃく)は秘方の薬を飲み、その眼で病人を見ると、心肺脾肝腎の五臓内の病変が透視できたと言われています。体の内部の状態を探ることは昔からの夢だったのですが、19世紀の初めに聴診法と打診法が開発されました。そして1895年(明治27)、レントゲンによるエックス線の発見と医学への応用によって診断技術が飛躍的に発展しました。

1845年に生れたウィルヘルム・レントゲンは、ドイツのヴュルツブルグ大学で物理学教授を務め、陰極管から出る放射線を研究していました。1895年11月8日にエックス線を発見し、ベルタ夫人の手を撮影します。この発見を論文にまとめて、手の骨と指輪の輪郭の像が明瞭に写った手のひらの写真を学者たちに送ったところ、人体を透視した写真は大きな反響を呼び、世界各国の新聞は世紀の大発見を報じました。工業界ではいち早く開発に取り組み、数か月のうちにエックス線撮影装置が販売されたといえます。

下の写真は、ミュンヘン大学(ルートヴィヒ・マキシミリアン大学)物理学研究所の便箋を用い、R.ランデンプルグにあてた手紙です。1903年7月5日付で、「あなたがミュンヘン留学を続けるつもりであることを6月29日の手紙で知り、喜んでいました。そこで私はあなたのために、次の学期でも使えるよう実験室の場所をあけておきます。もし今までの研究を整理できたならば、博士論文として認めるでしょう」と記しています。



レントゲンは1901年にエックス線の発見により第1回ノーベル物理学賞を受賞します。同じ年に第1回ノーベル平和賞を受賞したのは赤十字の創始者アンリ・デュナンでした。最愛の妻ベルタに先立たれたレントゲンは、第一次世界大戦後の超インフレが進行するドイツで1923年、失意のうちに死去しました。

医の博物館ではこのほか、ナイチンゲールやダーウィンなどの手紙も展示しています。



病院で働く人々

第2回

hospital specialist

「歯科技工士」の三富加奈子です。



皆様の中で入れ歯や被せ物を装着している、または装着していた事があるという方はいらっしゃるでしょうか。そういった技工物を作る事が私たち歯科技工士の仕事です。

技工物と言っても多種多様なものがあります。具体的には患者様の歯列の欠損の仕方によって総義歯や部分床義歯、インプラント(人工歯根)、被せ物では鑄造冠(銀歯や金歯)や前装冠(金属の上に歯の色の材料を盛っ



作業風景



各種義歯



ジャケット冠



人工歯排列

たもの)やジャケット冠(金属を使わずに歯の色の材料のみで作られたもの)などがあります。その他にも、矯正装置、スポーツの際使われるマウスピースやホワイトニング用のトレー等も技工物に含まれます。



歯科技工室

歯科技工士は、歯科医師からの技工指示書と石膏模型を元に技工物を製作していきます。診察の際、歯科医師によって患者様の口腔内で採得された型から石膏模型を作ります。石膏模型は担当する歯科技工士の手に渡り、そしてそれぞれの技工物に合わせた模型製作、ワックスアップ、金属の鑄造、人工歯の排列、レジンの重合、研磨など、完成に至るまで多くの作業手順を経て、患者様一人一人に合わせた技工物が作られています。当院では診療室と技工室が近接しているため、直接患者様にお会いしたり、担当の歯科医師からお話を伺いながら作業を行っています。

私たち歯科技工士は直接的に治療を行うことはありませんが、患者様の口腔内の健康状態を取り戻す手助けが出来るよう心をこめて製作しています。



インフルエンザの流行に備えて

●新潟病院 歯科衛生科

松木奈美 山崎明子 藤田浩美

◆インフルエンザはなぜ流行するの？

通常、インフルエンザは毎年11月下旬から12月上旬に流行が始まり、1月から3月にはピークを迎えます。インフルエンザはインフルエンザにかかった人のせきやくしゃみのしぶきと一緒に放出されたウイルスをのどや鼻などに吸い込んだり、そのしぶきが付着した場所に触れた手を介してウイルスが体の中に入ることによってうつります。インフルエンザは感染力が強いいためインフルエンザにかかっている人が無理をして学校や職場に行くと急速に感染を拡大させることになりかねません。

◆インフルエンザにかからないためにはどうしたらいいの？

- * 十分な栄養をとり規則正しい生活を心がける。
- * 人混みや繁華街への外出はなるべく控え、帰宅後はうがいと手洗いを徹底する。
- * 室内は乾燥に注意し、湿度(50～60%)を保つ。

◆咳(せき)エチケットを守りましょう!



写真1



写真2



写真3

- * せき・くしゃみをするときはティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。この時押さえた手は石鹸と流水で洗いましょう。
- * 鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。
- * せきが出る場合はマスクを着用しましょう。マスクはできれば病院などで使用されている透過性の低いサージカルマスクが望ましいですが正しく使用することが重要です。鼻はしっかりと覆いピッタリ合わせ(写真1)、あごの下までマスクのブリーツを伸ばします(写真2)。また、使用後はマスクの表面は触らないようにゴム部分を持ってはずしましょう(写真3)。ただしマスクを着用したからといって完全に病原体の拡散、吸入を防げるわけではありません。

インフルエンザにかからないために気をつけることも大切ですが、咳エチケットを徹底し人にうつさないことも大切です。もし近くにせき・くしゃみをしている人がいたら咳エチケットを広めましょう!!

新潟
病院

臨床研修歯科医師の



第8回 口腔ケア



総合診療科3

●岡 秀行 ●栴沢 裕貴 ●枝並 友希 ●竹内 一貴

臨床研修が始まり半年がたちました。そこでの経験を通して口腔ケアの重要性を知ったので取り上げてみました。

口腔ケアの目的として、まず一つ目に虫歯や歯周病、誤嚥性肺炎を予防することが挙げられます。

誤嚥性肺炎は、寝たきりで嚥下反射や咳反射(咳き込む)が低下した高齢者の方に起こりやすい病気です。通常、物を飲み込むと食道を通り胃にむかいますが、誤って肺の方に飲み込んでしまう事を誤嚥(ごえん)と言います。睡眠中、無意識に唾液を飲みこむ際、一緒にお口の中にいる細菌を同時に誤嚥してしまうために誤嚥性肺炎を起こすと言われています。そして口の中が汚れていると細菌の数も多いので、肺炎を起こす確率も高いと言われております。口腔ケアにより、口腔衛生状態を良好に保ち細菌数を減らすことでこれらの予防が期待できます。

二つ目に口腔機能の維持・増進が挙げられます。口腔清掃を行うことにより、お口の周りの筋肉が刺激され、食べる、噛む、飲み込むと行った口腔の機能が向上されると言われています。また嚥下反射や咳反射の改善による誤嚥の予防、食事時の介護負担の軽減などが期待されます。また、口腔内を清潔にすることで味覚が改善し、本来の食物の味を感じられる事で、おいしく食事を行うことができます。

三つ目に、様々な手術や、抗がん剤等の薬物治療を受ける際にも、口腔ケアを行うと、治療による合併症や副作用が軽減されることが解って来ました。がんの患者さん、糖尿病の患者さん、骨粗鬆症の患者さんなどは、特に口腔ケアが必要です。

□ 腔内の細菌数をなるべく減らし誤嚥性肺炎の防止や口腔機能の維持を行うことで、健康寿命の増加、QOL(生活の質)の向上が得られると思います。

口腔ケアの相談や興味のある方は口腔ケアセンターの医師や担当医等に気軽にご相談下さい。



本号より紙面の文字が大きくなりました。

編集
後記

■今年の夏は流行語大賞にノミネートされそうな“スーパー猛暑”なる新語(造語?)を残し、それでもやはりいつものようにちゃんと秋は訪れました。行楽の秋、スポーツの秋、読書の秋、そしてなんといっても食欲の秋です。あつという間に訪れる冬に備えて、また風邪やインフルエンザに負けないように体力や免疫力の向上は重要になります。メタボには気を付けつつ心身の健康づくりに励み余裕を持って冬を迎えましょう。(ふーじー)



日本歯科大学新潟病院・医科病院

アイヴィ通信



発行日/平成22年10月1日 発行人/関本恒夫 五十嵐文雄
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(支援室直通)